

熱田区歴史スポットを紹介します！

◎50 音順で並んでいます。

あつたうおいちばあと 熱田魚市場跡

中世、熱田は伊勢湾に面しており、魚の供給地として400 年程栄えた。江戸期には、仲買や小座は数千人に達したという。



あつたじんぐう 熱田神宮

三種の神器の一つ草薙神剣(くさなぎのみつるぎ)を祀ったのが神宮の起源で、社が鎮座されたのは景行天皇の末年頃(2 世紀初め)とされる。古くから「熱田さん」と呼ばれ、6 月 5 日の熱田まつり(尚武(しょうぶ)祭)で親しまれている。本宮、拝殿、神楽殿などのほか、別宮の八剣宮、摂社の上知我麻神社など、境内には摂社 8、末社 18 が鎮座。歴史的建造物として、清雪門、西楽所、龍影閣、信長塀、佐久間灯籠、二十五丁橋などがある。宝物館には、刀剣、鏡など 6,000 余点があり、公開されている。



かんちょうじ 観聴寺

西山浄土宗、山号は大悲山(だいひざん)。元和年間(1615 から 1624)正覚寺(しょうかくじ)十六世空山存宅(くうざんぞんたく)が開基したとされる。本尊は十一面観世音菩薩像である。室町期の鑄鉄地藏菩薩立像(県指定文化財)や月待(つきまち)供養碑(市指定文化財)がある。月待信仰は室町から江戸期にかけて盛んであった。



かなやましんじゃ 金山神社

承和年間(834 から 848)神宮鍛冶職尾崎彦四郎の祖である善光が、屋敷内に勧請したことに始まり、尾張鍛冶の発祥の地といわれる。大祭は、11 月 8 日のふいご祭。



さいだんばし うぼどう 裁断橋・姥堂

小田原の合戦の際、18 歳で病死した堀尾金助の供養のため、母が願いをこめて、東海道筋に架け替えたといわれる裁断橋の擬宝珠(ぎぼし)(市指定文化財)に刻んだ碑文が有名。2 階が「オンバコさん」を祀った姥堂。擬宝珠は名古屋市博物館に保管。



さ や かいどうどうひょう 佐屋街道道標

文政 4 年(1821)佐屋宿の旅籠連中が建立。佐屋街道は、東海道の宮から桑名までの海路「七里の渡し船」を避け、陸路で岩塚を経て佐屋に至り、佐屋宿からは木曽川を下り桑名に至る。



しろとりこふん 白鳥古墳

全長約 74 メートルの前方後円墳。6 世紀初め頃の築造。古くは日本武尊の墓と伝えられていたが、尾張氏の墓と考えられている。境内入口に本居宣長の歌碑がある。



しろとりていえん
白鳥庭園

平成 3 年にオープンした池泉回遊式の日本庭園で市内随一の規模を誇る。中部地方の地形をモチーフにしており、築山を御嶽山、川を木曽川、池を伊勢湾に見立て、壮大な水の物語をつくり出している。清羽亭は本格的数寄屋建築。



しろとりごさいもくじょうおふなくらあと
白鳥御材木場御船蔵跡

名古屋城築城にあたり、慶長 15 年(1610)、福島正則が堀川を開削したといわれる。別に材料場・船置場として大池が掘られ、後に木曽良材の貯木場となり、南側には艦船や御座船(ござぶね)を係留しておく御船蔵が置かれた。



しゅんようじ
春養寺

曹洞宗、山号は亀丘山(ききゅうざん)。文政 3 年(1820)創建。本堂前の線彫地蔵は、室町時代後期の作と推定される。境内には馬頭観世音菩薩像がある。



すみよしじんじゃ
住吉神社

享保 9 年(1724)に、摂津の住吉の神を勧請し創建した。境内に、名古屋の代表的俳人、圃暁(ほぎょう)、暁台(きょうたい)、士朗(しろう)の句を一石に刻んだ句碑(三吟塚)がある。



せいだいひじ
青大悲寺

如来教の本山、尼寺。山号は登和山(とわさん)。この地に生まれた「きの」が、享和 2 年(1802)に開基。室町時代に鑄造された等身大の鑄鉄地藏菩薩立像は、県の指定文化財。



せいがんじ
誓願寺

浄土宗西山派、山号は妙光山(みょうこうざん)。享禄 2 年(1529)創建の尼寺。創建以前の久安 3 年(1147)に、鎌倉幕府を開いた源頼朝がこの付近で誕生したといわれ、産湯の井戸といわれるものが境内に残っている。



ぜんりゅうじ
全隆寺

曹洞宗、山号は大亀山(だいきざん)。慶長元年(1596)、一説には元和年間(1615 から 1624)に尾張最初の永平寺直末寺院として創建、開山した。1989 年改築。



だんぶさんこふん
断夫山古墳

東海地方最大の前方後円墳。6 世紀初頭の築造で全長約 151 メートル。古来、日本武尊(やまとたけるのみこと)の妃宮簀媛(みやずひめ)の墓と伝えられていたが、現在では尾張氏の墓と考えられている。国の指定史跡。



ど とい つ は っ し ょ う ち ひ
都々逸発祥の地碑

寛政12年(1800)開店した鶏飯屋という茶屋に、お亀とお仲という美声の女子衆がいた。「ドドイツ・ドイドイツ」の囃子の潮来節に似た節回しの歌で評判を得たという。「殿々奴節根元集」により発祥の地といわれる。



とう かい どう どう ひ ょ う
東海道道標

宝暦8年(1758)、もう1基は寛政2年(1790)に建立された。道標は、東海道と美濃路または佐屋路の分岐点で、熱田神宮へは2丁(約218m)ほどの距離にあることを教えている。



ほう じ じ
法持寺

曹洞宗、山号は白鳥山(はくちょうざん)。弘法大師が自刻の地藏菩薩像を本尊として小堂を建立したのに始まるとされている。芭蕉、林桐葉、若山牧水ら文人が句会・歌会を開いた。



みや わ た し あ と
宮の渡し跡

曹洞宗、山号は白鳥山(はくちょうざん)。弘法大師が自刻の地藏菩薩像を本尊として小堂を建立したのに始まるとされている。芭蕉、林桐葉、若山牧水ら文人が句会・歌会を開いた。



み ょ う あ ん じ
妙安寺

臨済宗妙心寺派、山号は富春山(ふしゅんざん)。通称「沢の観音」。本尊の聖観音像は宋の古銭で作られたといわれる。その昔、境内から南西への眺望は絶景で文人墨客が往来した。境内には、芭蕉、士朗、岳輅(がくろ)らの句碑がある。

